

○議長 辻本 一夫君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

4番、萩原です。通告書に従いまして質問してまいります。

件名1、選挙の投票率向上について。

来年の4月は統一地方選挙が行われますが、選挙でより多くの住民の意思を反映させるためにも投票率を向上させることは大切です。その中でも、投票率の低い若者に選挙への関心を持ってもらうことは今後の投票率向上につながるのではないかと考えます。そこで、次の点についてお尋ねします。

要旨1、投票率の状況について。

前回の統一地方選挙から昨年の衆議院選挙までの、町の投票率の推移をお尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。住民課長。

○住民課長 溝上 竜平君

平成31年4月の町議会議員選挙から昨年10月の衆議院選挙までに執行された4つの選挙の投票率、並びに郡内平均との比較などを交えながらお答えいたします。

まず、平成31年4月の町議会議員選挙の投票率は52.2%、本町を除いた郡内3町の平均は49.7%で、郡内での順位は1位でした。次に、令和元年7月の参議院選挙の投票率は47.5%、3町の平均は48.1%で、郡内では3位でした。続きまして、昨年4月の福岡県知事選挙の投票率は33.8%、3町の平均は32.3%で、郡内では1位でした。最後に、昨年10月に執行された衆議院選挙の投票率は56.1%、3町の平均は54.9%で、郡内では1位となっております。

以上が投票率の推移となりますが、現状、芦屋町の投票率は遠賀郡内では上位にあることがお分かりいただけたと思います。また、芦屋町の特徴の1つとして、郡内他町と比べ町の地方選挙の投票率が突出して高いことが挙げられます。平成31年の町議会議員選挙の投票率は郡内3町の平均値より約10ポイント高く、平成27年に執行された前々回の選挙においては町長選挙が同時に執行されたことも相まって、約16ポイントも高い結果となっております。

これは少し乱暴な言い方かもしれませんが、町行政に関心がある人が多いイコール投票率が高いという整理ができるとすれば、現状、芦屋町の町民は遠賀郡内で1番町行政に関心がある方々と言えるのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

先ほどと同様の選挙における、年代別の投票率の平均値をお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

住民課長。

○住民課長 溝上 竜平君

先ほど申し上げた4つの選挙の年代別投票率の平均についてお答えいたします。

まず、10代は33.1%、20代は34.1%、30代は39.6%、40代は42.8%、50代は52.2%、60代は61%、70代は65.1%、80歳以上が47.4%となっています。傾向といたしましては、若年層が低く年齢が上がるにつれ投票率は高くなりますが、さらに高齢になると低くなっております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、お話がありましたとおり芦屋町の投票率は郡内で1位と、とても投票率がいい。その代わりに若年層の投票率が低いというのが町の課題であるということが、今はっきり分かりました。

次、要旨2に参ります。投票率の向上について。

私が3年前に行った一般質問で、町は「投票日の臨時バスの運行と選挙公報のインターネット活用に対し、検討する。」との御回答をいたしました。その後、どのように検討されたのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

住民課長。

○住民課長 溝上 竜平君

3年前の一般質問では町長・町議会議員選挙での対応を質問されたと思いますのでそれを念頭に、来年執行される町長・町議会議員選挙における選挙当日の臨時バスの運行について、まずはお答えいたします。

3年前の一般質問では、議員より「高齢者の方が安心して投票に行ける体制を整備するためにも、選挙当日に臨時バスを準備するなどの取組が必要ではないか。」との御意見をいただきました。これを受け、選挙管理委員会では巡回バスを選挙当日の日曜日に運行できないか調整したところ、当時の委託者から人材の確保が困難であるとの理由で運行は断念せざるを得ない状況でした。しかし、現在は委託者が民間業者に替わり人材確保の課題が解消され、別途契約を締結

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

すれば日曜日の運行が可能となっております。このため、来年執行される町長・町議会議員選挙では選挙当日の日曜日に巡回バスを運行し、高齢者の方が安心して投票に行ける体制を整備していきたいと考えています。また、この件については町長・町議会議員選挙以降も継続していきたいとも考えています。

次に、ホームページを活用した選挙公報の実施についてです。

これは町長・町議会議員選挙が告示日から投票日までの期間が6日間と短く、立候補者の公約等が記載された選挙公報が、遅い方では投票日の前日に届けられています。「昨今、期日前投票の割合が増える中、選挙公報を読んで投票していただくためにも、インターネットも活用すべきではないか。」との御意見をいただいております。この御意見を踏まえ、来年の町長・町議会議員選挙では通常の紙ベースの選挙公報の配布と併せ、町ホームページにも掲載していきたいと考えています。

これにより、インターネット環境が整っている方に限りませんが、告示日の次の日には選挙公報が確認できるようになります。ただし、選挙公報のSNSへの掲載は現状認められていませんので、当分は町ホームページのみでの掲載となります。また、国政・知事・県議会議員選挙分については芦屋町選挙管理委員会で編集等行っていないので掲載することはできませんが、候補者名等は分かるよう町ホームページにリンクを貼るなどの対応は行っていきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

選挙公報もホームページに掲載していただけるようですが、例えば高齢の方などホームページをなかなか見ることができない方もいらっしゃると思います。

そこで新たな提案として期日前投票所や庁舎の玄関、入り口にですね、選挙公報を掲示してはどうかと御提案させていただきます。小さな字だと高齢の方はなかなか見えません。拡大したものをですね、庁舎玄関等に掲示すれば、選挙以外で来られた方も選挙に対する関心が持てるんじゃないかと思います。この点についていかがでしょうか。御見解を求めます。

○議長 辻本 一夫君

住民課長。

○住民課長 溝上 竜平君

それでは、拡大した選挙公報の掲示についてお答えいたします。

現在、期日前投票所の入り口付近に選挙公報を掲示・配架していますが、町長・町議会議員選挙の選挙公報のサイズは、町長候補者がB5サイズ、町議会議員候補者はB6サイズと小さいこと

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

は否めません。今後、期日前投票所の入り口付近の掲示物については、御意見のとおり拡大など対応していきたいと考えています。ただし、庁舎入り口についてはサイズ、固定方法等の課題がございますので、庁舎1階のスペースなどを活用し実施できればと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

次に若年層ですね、若者の方の投票率を向上させるための施策をどのようにお考えかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

住民課長。

○住民課長 溝上 竜平君

それでは、若者への施策についてお答えいたします。

若者への取組については、現在「二十歳のつどい」と名称が変わった成人式の会場において投票を促すグッズを配布し、啓発を行っております。今年度からはこれに加え、昨年の衆議院選挙から来月の参議院選挙の間、18歳に到達した方々へ啓発チラシやグッズを送付し、来月執行される参議院選挙の投票を呼びかけようと考えております。また、来年度の統一地方選挙に向け、同様の取組を3月にも実施していきたいと考えています。

このほかにも、昨年度末から運用されている芦屋町公式LINEや今年度から運用を始めた九州朝日放送dボタン広報誌など紙媒体以外のツールも活用しながら、情報発信並びに啓発を中心に若者の投票率向上を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

若者への施策で今、啓発チラシですかね——を送られるというお話がありました。こちらで若者への施策について2点御提案があります。

まず1点目は、高知県室戸市選挙管理委員会で行っている選挙メッセージ事業についてです。これは中学3年生に、選挙年齢となる18歳の自分自身に向けたメッセージを書いてもらって、選挙年齢に達したときにこのメッセージを実際に本人に御郵送するという事業があります。審査結果の公表やメッセージは、市役所のロビーや市のホームページでも掲載されています。今、町は選挙啓発のチラシ等をですね、郵送するという事です。せっかく行う事業です。通り一遍の

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

啓発チラシではなく、もっと工夫が要るんじゃないかと思います。

例えばですね、町長が直筆で手紙を書いて出すとかですね、何かやっぱり目に留まるものがないと、せっかく行う事業でもそれが効果として上がらなければもったいないと思います。その点いかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

住民課長。

○住民課長 溝上 竜平君

貴重な御意見ありがとうございます。

現状、チラシやグッズの送付の準備っていうのはほぼ終わっておりますので、今年度につきましては先ほど申し上げた内容で実施してまいります。ただし、今後この取組を継続するに当たり、事業評価は行っていきたいと考えています。この評価の中で効果等を検証し、必要であれば改善してまいります。このため、議員からいただいた御提案につきましては、本取組を改善する際の1つの案として活用させていただければと思います。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

どうぞ、よろしくお願いします。

2点目は山形県遊佐町の取組を御紹介させていただきます。山形県では18歳の選挙権適用後の国政選挙の投票率が3回連続で全国1位になっています。しかし、10代の投票率が県全体の平均を下回っているということで、山形県選挙管理委員会が独自で高校3年生を対象にアンケート調査を実施しました。その中で私が注目したのが投票行動と家族の関係です。山形県遊佐町では、「子供の頃に親と一緒に投票に行ったことがある」高校生は、「行ったことがない」高校生より投票率が10ポイント高いとアンケート結果から出ております。

令和3年1月に開催された県知事選挙で遊佐町はですね、子供の投票への意識づくりとして親と一緒に投票に来た子供にお菓子のくじを引いてもらう、そういった事業を実施したんですね。このように、投票行動と家族の関係に働きかけることは若者の投票率向上につながるのではないかと私は考えますが、いかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

住民課長。

○住民課長 溝上 竜平君

ただいまのですね、議員の御提案につきましてはおおむね賛同いたしますが、来年執行される

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

町長・町議会議員選挙では、芦屋町選挙管理委員会が選挙の全てを取り仕切ることにあります。国政や知事、県議会議員選挙とは異なり様々な準備や対応が必要であるため、町長・町議会議員選挙でこれらの対応は厳しいと考えております。

なお、ファミリーをターゲットとした啓発につきましては様々な方法があることは確認しておりますので、本日議員からいただいた御提案につきましては今後の投票率向上に向けた検討課題の1つとして賜り、生かしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

どうぞしっかり取り組んでいただきたいと思います。

最後に今後のですね、若者の投票行動に働きかけるためには、若者の意見を町政に反映させる機会や選挙の理解を深めるための取組などが必要になってくるのではないかなと思っております。7月には参議院選挙も行われます。少しでも結果に結びつくよう、ぜひしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

次は件名2、農業者支援についてにまいります。

我が国の農業は農業従事者の高齢化、耕作放棄の拡大、海外からの農作物の輸入増加などの問題を抱え、経営は難しい状況に置かれています。この状況は芦屋町も同様で、次世代を担う新規就農者や後継者の確保育成は急務であると考えます。そこで、次の点についてお伺いいたします。

要旨1、芦屋町の農業者の現状について。

まず初めに、総農家数、農業従事者数、高齢化の状況についてお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

芦屋町の農業者の現状について、2020年（令和2年度）と2015年（平成27年度）に行われた農業センサスのデータを基にお答えいたします。

まずは2020年のデータですが、芦屋町の農家数は農業生産等を行う個人経営体が37、個人経営体の基幹的農業従事者、こちらが76名となっております。この基幹的農業従事者76名の年齢構成は、39歳以下が5名、40歳以上59歳以下が12名、60歳以上79歳以下が45名、80歳以上が14名となっております。うち65歳以上の従事者の方は48名で、全体の63.1%となっております。

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

次に2015年（平成27年度）に行われた農業センサスのデータを申しますと、農家数は44、基幹的農業従事者は87名、うち65歳以上の従事者の方は51名で全体の58.6%となっており、このデータから比較しますと2015年～2020年の5年間で芦屋町の農家数としましては7経営体の減少、農業従事者は11名減少し、65歳以上の従事者の方は4.5%増加しております。

このことから、芦屋町の農業者の現状としましては農家数は減少傾向にあり、基幹的農業従事者の減少と高齢化が進んでいる状況でございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

次に、農業の担い手である後継者や、後継者不足により規模縮小する農家の状況についてお尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

2020年の農業センサスにあります5年以内の後継者の確保状況では、法人を含む38経営体についてのデータとなりますが、「5年以内の後継者を確保している」が38経営体中17経営体となっております。なお、規模を縮小する農家数は令和3年度農地基本台帳補完調査の回答によりますと、2つの経営体が「規模縮小」と回答されております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨2、農業支援についてお尋ねします。

まず、ここ数年で農業に関する御相談が何件ほどあり、どのような内容の御相談があったのかお尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

直近の就農の支援等に関する窓口相談件数としましては、令和2年度と令和3年度の実績をお答えいたします。

相談の件数としましては令和2年度が5件、令和3年度が9件で、2年間の合計は14件となっております。内訳としましては、就農等に関する相談が8件、その他が6件となっております。

次に相談内容ですが、就農等に関する相談に関しましては農業を始めるために必要な条件や手続、支援制度などについてのお尋ねが多く、その他の相談は自身が計画している農作物等の芦屋町での栽培状況の確認や農作物の育成、販売の方法など経営に関する相談があつているところがございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

では、この御相談からですね、新規就農につながった件数をお尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

新規就農につながった件数ということでお答えいたします。

就農に関する問合せは過去2年間で8件ありましたが、うち2件は後継者として就農される方の相談でありまして、残りの6件が新規就農を考えている方の相談となっております。この6名の方については、現段階で芦屋町での就農には至っておりません。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

御相談はあつたんだけどつながらなかったと、その要因を町はどうお考えかお尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

確かに直近の2年間で、相談後に芦屋町で就農された方の実績はございません。

新規就農につながらなかった要因につきましては先ほど御説明いたしました。相談の多くは農業を始めるために必要な条件や手続、支援制度などがございます。しかし、その相談の中で相談者より就農が困難となるような具体的な話は確認ができておりません。また、相談後にですね、

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

就農を断念されたのか現在も検討中であるかは確認が取れておりません。よって、正確なことが把握できてないということでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

では、新規就農者に対しての支援なんですけど、6月6日にですね、ホームページで新規就農者に対しての支援が出されています。町の支援策というのは、あの内容で全てですか。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

ホームページに掲載されている支援内容、あれは国の制度を周知するもの、町を通じてですね、申請を受け付けるもので、今ですね、掲載をしております。そのほかには機械導入等の支援もございます。第6次総合振興計画の中にもですね、農業次世代人材投資事業補助金や水田農業担い手機械導入支援というような支援策もございます。

ちょっと、ホームページにはまだ掲載できてない分も一部あるということでございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

では、ホームページのところは国の支援しか載っていないんだけど、しっかり新規就農者に対しての支援は行うという理解でよろしいですか。これ、町長のマニフェストでもありますよね。ですよね。御答弁求めます。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

担い手の支援につく支援策については、しっかり周知を行ってまいります。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

次ですね、後継者の数、冒頭でも示されましたが、芦屋町でも後継者不足は深刻な状況です。農業従事者の方から話を伺ったところ「国の補助金制度の要綱は複雑で、要件が合わず制度を活用できなかつたりする。」との話がありました。しかし、定期的には買換えの必要な農業機械は6

令和4年第2回定例会（萩原洋子議員一般質問）

00万円～700万円ほどするそうで、「経営をすごく圧迫するんだ。」というお話もありました。「やる気のある農業者が積極的に投資できるような、町独自の農業支援策を拡充してほしい。ぜひともお願いしたい。」という声があります。

町はですね、創業等促進支援事業を行って、このコロナ禍でも町内にお店が増えてます。これ、効果が出てると私は思うんですね。次は農業後継者、意欲のある方にですね、「農業をしていこう。続けていこう町内で。」そう思ってもらえるような情報発信、あと経済的な支援がもう絶対必要なんだと思うんです。芦屋町の農業を守っていかないといけません。この点について、どうお考えかお尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

議員がお尋ねになってます課題としてですね、挙げられております、農業経営の安定化及び担い手や後継者の育成に係る支援は第6次総合振興計画にも掲げておりますが、取り組む必要がある重要な施策でございます。

先ほどもお答えしましたが、町では農業次世代人材投資事業補助金や水田農業担い手機械導入支援事業補助金などにより現在、担い手の支援を行っておりますけれども、近年では令和2年度に水田農業担い手機械導入支援事業補助金の申請が2件あり、機械購入時の支援を行っているところでございます。しかしながら、担い手への支援制度の活用件数は少ない状況でございます。件数の少ない理由としましては、対象となる要件のハードルが高く、条件を満たしていない場合や対象となる農業者が少ないことなどが考えられます。今後、補助制度の条件緩和や内容などの見直し、他町の取組なども参考に芦屋町の現状にあった、求められている支援策を検討してまいりたいと考えております。

また、情報発信につきましては今以上にですね、農業へ興味を持ってもらえるよう情報発信の充実に取り組み、農業の魅力を伝えていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

芦屋町の農業を守るためにですね、あと2分、町長どうお考えか一言よろしく申し上げます。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

萩原議員のおっしゃられることも、ごもつともでございます。今まで芦屋町はですね、商業振興にはすごく力を入れております。そこで、やはり芦屋町は農業あり漁業ありということで、農業振興・漁業振興、何にお金がかかるかと言うと、やはり道具ですよ。漁業にしても農機具にしてもかなりの金額がかかるので、県は少し出しますんですけど、それではとても追いつかないということで、今さっき課長が言った2件の方の農機具は芦屋町独自でさせていただいて、これをずっと漁業の方にも農業の方にもやっていただく。そしてそれが後継者につながるという、後継者が「じゃあ、やってみよう。」「やろう。」という意欲を持つような形に持っていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ぜひともですね、町長のマニフェストでもあります農業のほうをしっかりと進めていただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長 辻本 一夫君

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。